KIZUNA

きずな

No. 153
2020.12.1

日本カトリック海外宣教者を支援する会

巻頭言

やっと気がついた

鎌倉雪ノ下教会信徒・当会運営委員　後　藤　美佐子

ワタクシタチは「きずな」発送作業のために、3、6、9、12 月の第 1 木曜日にマリアの宣教者フランシスコ会瀬田修道院に集まる。(現在はコロナ感染防止のため異なる形でおこなっている)

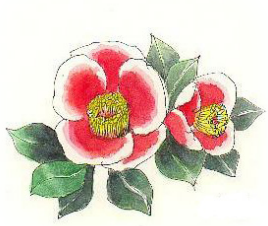
ココに呼ばれたワタクシタチ。真ん中に主イエズスさまがいてくださるココはひとつの共同体。海外に派遣されている方々、海外から再び日本に派遣されている方々におもいをはせながら手足を動かす。以前はお昼をはさみ 15 時前後に終了、ほっと一息つく茶話会。Sr. 斎藤ハツエさんがこの会の歴史のお話をしてくださったり、みなが分かち合えるようにいろいろな話題を提供してくださった。「ここは単なる作業場ではないのよ、海外に派遣されている宣教者を思い巡らし分かち合いながら祈り働く場なの」と。

数年前から、ヴェトナムからのシスター希望者、エスコラピアス修道女会修練者の方々が仲間に加わった。初めはお互い身振り手振りであったが会うたびに会話が弾んでいく。その効果は作業速度にもおよび、今では昼前には完了し、軽く茶話会をして散会となるようになった。

作業の前に隣接する瀬田教会のおみどうに聖体訪問し修道院に向かう。シスター方が事前に

もくじ

巻頭言 …… 1
第 78 回運営委員会議事録 …… 3
宣教者からのお便り …… 4
ザ・メッセージ ECHO …… 11
連載「海外宣教」 …… 12
クリスマス特集 …… 13
新入会員・事務局より …… 16



準備をして待っていてくださる。無事に作業を完了できたことに感謝し清々しい気持ちで坂を下り駅に向かう。

きずな No.140 に寄稿させていただいたが、母方に３人の修道者がおり、長らくブラジルに、ペルーに、国内に派遣されていた。（現在３人は国内派遣）

身内ゆえ中途半端に「ワタシの海外宣教者」と抱え込んでしまい、自分が何を知っていて何を知らないのか、解らないことが沢山ある。

1979 年、先にブラジルに派遣されていた佐々木治夫師（横浜教区）の「生きた教会がみられますよ」という言葉にむかえられオバは南米の地におりたった。４年ごとに帰国、保土ヶ谷の実家を家庭訪問するときに我が家は一家あげて、ブラジルの地図持参で押し掛けた。日本は高度成長期からバブル期、地球の裏側異国のお話を食い入るように聴いた。

派遣先はブラジルのなかを西に東にあちこちと、2000 年過ぎてからはアマゾナス州奥地へ奥地へ（cf. カトリック新聞 p.04(No.3814)2005)、伝染病に罹患したり事故にあわないようにと祈りと手紙のやりとりで気持ちを繋いでいた。

後日知ったのだが、ペルーに派遣されていたもう一人のオバは 1997 年、「日本大使館占拠事件」の際、取材に来た新聞記者とマヌエル加藤師と３人でその後の厳戒体制中のその地区を知るため現地に情報集めに走り回ったと。その時日本の放送局でニュースのために現地の情報を集めていた方が瀬田の作業の仲間にいらしたのである。

海外から再度日本に派遣された方々が多くおられた時期、修道院の草取りに寄せていただいていた。バラ園やフランシスコのサークルで鎌をふりまわしている時に宣教先のお話をうかがう機会が多々あった。

内戦勃発のため国連軍により強制的に空路ベルギーに移動させられた話、反政府軍のとらわれ人として何ヵ月もジャングルを移動することになった話、草取りしながら「ひとり海外宣教者のお話を聴く会」なんと贅沢な。

その頃から「海外に出ていくこと」とはなんだろう？もやもやと考えるようになった。

無事に海外ミッションを完了することは容易ではない、兄弟姉妹の祈りに支えられてなしえるのであると深く感じ、感謝の気持ちで一杯になった。いただいたものはお返ししなくては。猛威を振るうコロナから解放され国内・国外の宣教者が移動可能になった時、その活動を充分に支えることができるようにワタクシタチは今を「準備して待つ」貴重な時間ととらえたい。

井戸の水（自分の身内）しかみていなかったワタシは、きずな発送作業に関わることによって、やっと大海原に気が付くことができた。

仲間とともに学ぶ時を大切にしていきたい。みなさま、よろしくお願いいたします。

□■□ 第 78 回運営委員会議事録 □■□

日　時：2020 年 9 月 14 日（土）　15:00~17:00

場　所：フランシスコ会聖ヨゼフ修道院　2 階会議室

議　事

Ⅰ.「きずな」152 号について

今回、11 人という沢山の宣教者からお便りを頂き、また 10 月 3 日に予定していた 「宣教者のお話を聞く会 2020」がコロナの影響で中止となったお知らせ等がありページ数が 20 ページになった。

Ⅱ.「きずな」153 号について

巻頭言：新運営委員・後藤美佐子さんに依頼。

カラー版 150 号の評判が良かったので年に 1 回はカラーにしたい。12 月はクリスマスカードが送られてくるので来年 3 月号をカラーにする。

Ⅲ. 援助申請審議について

① シエラレオネの Sr. 白幡和子（ご聖体の宣教クララ修道会）より足踏み式ウォータータンク 8 台（1 台＄1,500）購入費＄12,000（¥1,266,840.）の援助申請があった。
コロナヴィールス予防の為、生徒たちの手洗用に 8 つの学校で設置したいとの事だが、高額でもあり詳細を再度確認。　検討の結果、継続審議

② チャドの Sr. 泉叔美（ショファイユの幼きイエズス修道会）より 1 人の修道生活希望者が助産婦の資格を 3 年間コースで取る為、残り 2 年分の学費　€1,160（¥145,615）の援助申請があった。助産婦の勉強をするにあたり、どの様な経緯で始めたか、また卒業後の可能性などより詳しい情報を再度確認。　検討の結果、継続審議

③ チャドの Sr. 平静代（ショファイユの幼きイエズス修道会より寮に居住の小、中、高校生の為に学費 €1,524（¥191,308）の援助申請があった。コロナによる両親の収入減の為、40 名～60 名の枠で前期分、又は前期、後期の学費。公立の小、中学生 1 人当たり 1,000 F cfa（全額）、私立中学 1 人年間 /35,000 F , 私立高校 1 人年間 /40,000F、私立小学校 1 人年間 /15,000F。家庭の状況により判断。　検討の結果、承認された

④ チャドの S r. 平静代（ショファイユの幼きイエズス修道会）より女子寮の長年使用のマットレス交換費用 €914（¥114,734）の申請があった。
スポンジのマットレス　20 枚分　　1 枚→ 30,000 F cfa（輸送料込み）
検討の結果、承認された

Ⅳ. その他

○「きずな」152 号はコロナの影響でゼンリンで封入発送。・・2,936 通 12 月 153 号　発

送はコロナの状況をみて瀬田ボランティア発送か業者発送かを決定。

○８月４日に事務所複合機の借り換えをした。

○ 10 月３日のお話会会場をお借りする事になっていたカトリック成城教会主任司祭に中止をお伝えした。

○新運営委員、後藤美佐子さんの紹介。

○海外宣教者へ８月 25 日カトリック雑誌等発送 43 通。コロナの影響で郵便局から日本クーリエサービス（株）に変更した。船便で数ヶ月遅れになるが、喜んで読んで下さっているとのご連絡を頂きドンボスコ社様などのご協力により今後も続けていきたい。

○「きずな」海外便発送（９月４日）・・134 通。国内大口発送（９月８日）・・74 通

○「きずな」のフォントサイズをもう少し大きくしたら見やすいのではないか。今後検討していきたい。

○４月からホームページの更新作業を徳田教会の全さんにお願いし、少しずつ見やすくなっている。これからも沢山の方に見ていただく様、宜しくお願いしたい。

○援助申請に関して・・今後申請書によりくわしく詳細を書いて頂く様お願いする。

・可能であれば瀬田 12 月３日きずな国内発送、海外便発送 12 月４日事務所予定

・次回運営委員会は 12 月 12 日（土）15 時～聖ヨゼフ修道院２階会議室

宣教者からのお便り

フィリピン　◆南コタバト◆

続く隔離とロックダウン

御受難修道女会　松　田　　翠

こんにちは、私たちの為に非常に熱心に働いていらっしゃる皆様お元気ですか？

ありがとうございます、10 月 26 日にきずな２冊 150 号と 151 号を受け取りました。

コロナウィルスのおかげですべての郵便が遅れています。

こちらフィリピンでは政府が厳重に隔離とロックダウンを続けています。コロナ感染患者が出たなら隔離され、医療と配食の人を除いて誰も彼らと接触できません。

時間とともに多くの事務所も閉じられ私たちにとって、とても不便なことです。

私達は全員元気にしています。日曜の修道会のミサに 20 数人の方がマスクやフェイスシールドをつけソーシャルデイスタンスをとって参加されます。どこでもミサの参加者が減ってからは、我々のホスティア制作も大変影響を受けております。黙想生活としての私たちの主たる収入源はホスティアの販売だからです。ともかく

も私たちは普通に生活を続けられておりますが、大勢の人々が職を失っています。このことは人々が日々の生活でお金に困窮しているという事です。

皆様がお祈りと働きで支援し続けていただいていることに深く感謝しております。

チャド　◆ライ◆

音楽の授業を頑張っています

ショファイユの幼きイエズス修道会　松　山　浩　子

お元気ですか？マラリアと腸チフスには、なりましたが……covid-19 には、なっていません。わたしは音楽の授業を頑張ってます。神学校とカトリックの中学校の生徒も以前より、パンデミックで学校がお休みだったので皆、真面目に、聴いてくれるので助かります。少し具合も良くないのでできれば日本で休暇をとって、健康診断を受けたいと思っています。

60 歳になって、体力・気力が落ちていくのを感じます。皆様のお祈りのお陰で何とか、生きてます。

お心お体を大切に！ 感謝と祈りのうちに……

チャド　◆ライ◆

幼稚園は再開出来ました

ショファイユの幼きイエズス修道会　平　　静　代

ご無沙汰しております。お元気でしょうか？

ライに戻りましら仕事に追われてしまいました。それに約２ヶ月ほどインターネットが政府の方から切られなかなか連絡が取れませんでした。現在は選挙の前でインターネットも以前のようになりました。約 10 時間の道のりを走りました。途中、川が氾濫して水の中を走らせました。10 月も中旬、雨期もそろそろ終ります。

排水溝が無いので多くの学校が水の中、または避難場所となっていて、学校が開けないでいます。幸いに私達の幼稚園も始める事が出来ました。

マスクの姿です。子供はいつどこでも元気ですね!!　コロナウイルスに負けず、ともに祈り支えあって行きましょう!!

オーストラリア　◆シドニー◆

10月から通常通りの営業に

聖パウロ女子修道会　松　本　　恵

残念ですが、新型コロナウイルスの影響で、住所変更してから一度も「きずな」を受け取っていません。

「きずな」だけでなく、今まで毎週届いていた「カトリック新聞」も、私がシドニーに引っ越ししてからずっと届いていません。住所を変更したからというより、ちょうどその頃から日本からの郵便物が届いていないのだと思います。

でも、最近は、国境が開かれつつあるので、郵便物も来るのではないかと期待しているのですが…

国境どころか、州境も最近まで閉ざされていたのですが、２週間ちょっと前にそれも解除され、いろいろな手続きのための最小限の日数を待って、３日前に、前にいたアデレードの修道院に、２週間の予定でやっと来れたところです。

修道院を売却する前に、最終的な物の整理と掃除をするために来ているのですが、ここを出た３月の時点では、まさか、こんなに長く半年以上も待たなければならなくなるとは思ってもいませんでした。

シドニーの書店は、私が着いて１か月ほどは平常通り営業していたのですが、その後、ドアを閉めて、電話とオンライン注文に対応するだけという日々、時間と日数を限定しての営業という数ヶ月を経て、10月の初めから、平常通りの時間帯で営業し始めました。

小教区の教会も、完全にドアを閉めていた日々を経て、今は、ミサの時間は平常に戻っていますが、座席は１列おきにロープが張られたり、入口は一か所だけにして、毎回、参加者は名前と電話番号を記入するよう決められていたりと、まだまだ重苦しい雰囲気です。

この状態がいつまで続くのか分かりませんが、この期間に得られたプラス面もいくつかありますし、ワクチンの開発も期待しながら、希望のうちに日々を過ごしたいと思っています。

みなさまもお元気で！

シエラレオネ　◆ルンサー◆

ペタル式のウォータタンクを

御聖体の宣教者聖クララ会　アンドリアナ・ファレス

すべてが元気であることを願い祈り、ご挨拶できることをうれしく思います。

はじめに、私はウォータータンクのコストについて誤ったお知らせしたことを謝罪したいと思います。

次に、金額が多額であったにもかかわらず、シスターベルナデットからの要求を考えてくださった事に対して大変感謝を致しております。

今回は、コロナウイルスの問題を踏まえて、政府からの要求は、子供たちが手を洗うことができるように、各学校がウォータータンクを備えることです。

私たちは、「ペダル」を押すと、水が水道栓を手で捻らなくても出てくる「ペダル」を備えた新しいウォータータンクを考えました。

この容器の１つ１つは1,500,000レオネであり、それに相当する＄は150米ドルです。

たぶん姉妹のベルナデッタが換算の時、勘違いしたのかもしれません。私が彼女とこの件についてフォローしなかった事は申し訳ございませんでした。

はじめに申し上げたように、彼女の要求を検討してくださりありがとうございます。

学校ごとに用意したいウォータータンク

メキシコ　◆チアパス◆

グアテマラでの支援

ベリス・メルセス宣教修道女会　眞　神　シ　ゲ

2020年3月にグアテマラ派遣の連絡をメキシコ地区長から受けましたが、コロナ騒動の真只中で、国境閉鎖・出国困難と続いて10月18日、コロナに感染していないかの念入りな検査を受けて、OK無事、グアテマラに入国できました。

グアテマラには、２つの家があります。１つは、コロンバという村にあります。ここでは診療所を開いています。もう１つは、グアテマラの首都・グアテマラ市の外れのコティオというところにあります。

私は、ここの修道院にいます。主な仕事は、教区の司牧活動に参加することです。今年は、コロナ騒動で青少年・婦人達の集まりなどはコンピュータを使っての集会となっていて、コンピュータを使いこなす事の出来ない眞神は、お手上げです。

ロスアンヘルスと言う所の崖下のゴミ捨て場に住む極貧家族救済事業に参加させていただいています。ヘスス主任神父の働きで、教会の庭に小さな大豆加工工場が建てられています。崖下に住む婦人の多くは、ここで働いています。ここの管理はメルセス会に任せられています。今は、コロナ騒動で工場の仕事はできませんが、月に２・３回の食料補給袋詰めがあります。11月４日、ソナ６にある貧民窟に行ってきました。崖下のごみ捨て場に住んでいる方々への食料補給の袋詰を作ってきました。豆・米・砂糖・スパゲティ・ビスケット等々、カリタスからの支援物資を300袋詰めました。６人のボランティアと働いてきました。崖下に降りることは、今のところ不可能ですが、崖下の皆さんがコロナに負けることなく、食料困難に陥る事もないように祈りながら仕事をしてきました。徐々に他の仕事も覚え、極貧の中で生きている方々の現実を知り、その支援の輪を広げていくことが出来るといいなと思っています。私たちも休暇中で、修道院で体力作りに努めています。又、皆様のお世話になると思います。よろしくお願いいたします。

グアテマラの庭の花

南アフリカ　◆ヨハネスブルグ◆

月に２度ミサの許可が出た喜び

イエスの小さき姉妹会　片　井　暁　子

日本はコロナウイルスの第３波が始まっていると聞きましたが、こちらもロックダウンレベルは緩められたのですが未だに終息の見通しが立つどころか感染者が増加しているようです。まだまだミサに与るのに制限があり、殆どは霊的聖体拝領、日曜日だけはインターネットでライブミサに与って保存のご聖体を戴くという生活です。最近、月に２度私達の家でのミサの許可を司教様から頂き大喜びしています。

ボリビア　◆ラパス◆

倉橋輝信神父の近況

サレジオ会　レイナルド・ビリヤソン

親愛なる日本の皆様、私たちボリビアの宣教師と倉橋輝信神父へ送ってくださる経済的支援に、心より感謝いたします。

倉橋神父は現在、健康管理のため他の高齢会員たちと一緒にコチャバンバ市にある修道院に住んでいます。ここではサレジオ会のブラザーと看護師が交代で世話をし、医師の検診、掃除、洗濯、食事の世話、服薬管理など、必要なケアを提供しています。倉橋神父はいつも笑顔で元気に過ごしています。

神様の祝福が、支援者の皆様の上に豊かにありますようお祈りいたします。

アルゼンチン　◆ミシオネラ◆

アルゼンチンの現状

神言修道会　北　島　泰　治

さて、コロナウイルスが世界を駆け巡って多くの犠牲者が出ていますが　皆さんはいかがお過ごしでしょうか。こちら、アルゼンチンでは今日までに２万７千人ぐらいの方が亡くなりました。私のいるミシオネス州でも現在までに58 人の方が亡くなりました。現在でも州境並びに国境も閉鎖されたままです。今日、国際便の再開第一号が運航したそうです。

外出はマスクをつければ　65 歳以下の人は自由です。ミサは参加者の制限があり　40 名程度ということになっています。そのせいかミサが荘厳になってきました。以前のお祭りみたいなミサから､心に届く祈りや静けさがあります。

また、平日のミサは朝の８時からコーラスみ

北島神父と信者さんたち

たいなロザリオ、その後歌のない黙想会みたいな静けさの中にも霊的に深みのあるミサになっています。なにか毎日修道院のミサにあずかっているみたいです。特に聖体拝領後の静けさの中で聞こえてくる鳥のさえずりには、今を生きてるという感謝の念に心満たされることがしばしばあります。神に感謝です。

まだ、外出が一切禁止の頃、地区の教会の有志の神父さんたちの働きかけに警察が協力して聖体行列を行いました。それは各小教区の中を警察のトラックの上に2メートルぐらいの高さの聖体堅持台を乗せて回るというものでした。でもそれが僕自身、生涯経験したことのないほどの感動で泣いてしまいました。それが各市区共に皆が道路わきに膝まづいて祈っている姿を見たからです。日頃教会に来ていない人たちも大勢いました。

また、各地区では炊き出しや子供のためのおやつを出すところもあります。苦しくて身の危険が迫る時こそ信者さんたちは寄り添いあうようになっています。毎回のミサでも、くじ引きで食料品が当たります。

私が日本で子供のころに経験した絆を感じています。皆の顔を見ていると、とても明るく悲壮感はまだありません。イエス様と日々生きているおかげでしょうか。年配の方が今もミサに参加できないのでよく電話で早く一緒にミサに出たいといわれます。今のところテレビや携帯電話でのミサ参加にとどまっています。一日も早くみんなでイエス様に感謝のミサを捧げたいものですね！今年のクリスマスは、きっとイエス様のお恵みをたくさんもらえることを祈っています。

フィリピン　◆マニラ◆

COVIT-19について

フランシスコ会　佐　藤　宝　倉

海外宣教者を支援する会のスタッフ及び会員の皆様には日頃大変お世話になっておりますことをこの場をお借りして御礼申し上げます。

さて、実は2019年の中ごろから、いつも一つのことを考えておりました。それはちょうど11月1日の諸聖人の祭日の第一朗読にありました「この人々は大きな試練を経てきた者たちで、その衣を小羊の血で洗って白くした」（黙示録7章14節）の一節についてでした。白い衣を纏っていた人たちの衣も自らの血に染まっていたことを考えますと、その衣を小羊の血の中に浸すことによって清められるという事は、小羊であるイエス様のためのイエス様と同じように血を流した者たちが天に迎え入れらることになります。脳裏には、アラブ世界で勢力を拡大したISISによって断首されたカトリックの青年たちの姿が浮んできました。命乞いをする間もなく、即座に強制的に死を通告された青年たちが意を決して死の瞬間に直面している写真を見ました。どれほどの恐怖が彼らを襲ったことでしょうか。しかし同時に強制的な死を受け入れた彼らに与えられた神の恵みの介入はどれほど大きなものであったのかと私の想像を掻き立てました。

2020年3月下旬からは、コロナの感染拡大報道を受けて、私は高齢者に分類され（フィリピンでは60歳以上）、旅行及び一切の外出禁止を命じられ、「強制的な死」が身近に迫り、「刑

の執行を待つ独房」に入れられたような気分で自然と落ち込みました。唯一の救いは、ミサと時課の祈り及び聖体礼拝とロザリオの祈りという環境に自分を置いていただけることでした。結局は、兄弟としての生活が自分の基本であることを再確認し、兄弟生活をより充実したものにすることに真剣に取り組むことになりました。今まで以上にお互いを見つめる時間が長くなることによって、時には火花が散ることもあります。そういうお互いの人間的弱さを認め合った上で、私たちの信仰はひたすら「主よ、罪人の私を憐れんで下さい」、「主よ、あなたがいなければ、私は何もできません」という神への根本的な懇願に戻っていきます。私たちのそばに居られる霊に気付き、イエスの霊とともに歩みたいと思います。

去る９月中旬からは、ろうあ者と共にするミサを半年ぶりに再開し、日常を取り戻す努力を始めました。霊に生かされたクリスマスをお祝いできますように、日本の皆様のためにお祈りさせていただきます。

ブラジル　◆サンパウロ◆

アウグスチノ長山武一師 帰天

神言修道会　暮　林　　響

ブラジル時間８月 20 日、ブラジルのサンパウロ州のタピライ市の自室で帰天されました。78 歳でした。

８月 18 日火曜日のお昼には、サンパウロの神言会管区センターで、管区長やその他の兄弟会員たちとお昼ご飯をともにし、その時は確かに今後も宣教活動を続けていく様子だったそうです。

翌日 19 日水曜日には、いつもの巡回ルートどおり、スザナ市の日本人・日系人シスターの共同体を訪問してミサを献げました。タピライ市に帰宅したのは 20 日木曜日で、医師によりますとその午後６時に自室で息を引き取られたそうです。自然死だったとの診断です。

現地の日系人の皆さまからは、愛をこめて神出鬼没とよく言われるほど、各地の日系人共同体に突如訪問されるような印象で、本当に多くの方々を大切にし、自身も愛を受けました。

葬儀までの間は現地の日系人共同体の皆さんと兄弟会員たちが祈り継いでくださり、ブラジル時間の８月 21 日の午後３時（日本時間 22 日午前３時）に葬儀ミサ、引き続いて埋葬式が行われました。葬儀ミサには、市の人々と共に祈るために、かつて長山神父と共に共同体を成して宣教をされた後で司教に叙階されたジョゼ・ベタニア司教をはじめ、多くの兄弟会員が共同司式に上がってくださいました。生前からのご本人のたっての願いで、管区長の了承のうえで、タピライ市の共同墓地に埋葬されたそうです。今年は、司祭叙階の金祝で、５月初頭に企画されていた金銀祝のミサに参列できることを楽しみにしておりましたが、コロナ禍のためにお祝いのミサが延期になった上に、ブラジルからの出国そのものができなくなり、長山神父との再会を心待ちにしておられた方々も大変残念がっていました。長山神父の疲れ知らずの宣教の歩みに心から感謝するとともに、天からの交わりのうちに今後のわたしたちの宣教活動を力強く支えていただけるよう願います。

ザ メッセージ（海外短信）

＊イタリア　ローマ

イエスのカリタス修道女会　松山恵美子

2020 年 9 月 1 日にきずな No.150 と 151 を同時に受け取りましたので、お知らせします。さっそく、みなで回し読みしています。感謝のうちに。

＊チャド　ライ

ショファイユの幼きイエズス修道会　泉　淑美

お世話になります。先日、Sr. 平から、援助決定の知らせを受けました。ありがとうございます。

＊東ティモール

聖マリア修道女会　荒井祥恵

寛大なご援助をありがとうございました。新型コロナの一日も早い収束と私たちも一日も早く東ティモール　アタウロ島へ行けることを願います。皆様、気をつけてお過ごしください。

＊カナダ

レデンプトリスチン修道会　修道女

シスターマリー・デ・ラ・トリニテ 流石貴久江が 6 月 8 日帰天致しました。お世話になりました。

ECHO

▽きずな 152 号を送っていただきありがとうございます。コロナ禍の状況でも多くの人が海外で活躍しているのを嬉しく思います。きずなを読む事で少しでも海外の様子を知ることができ、ありがたく思います。みなさんの安全と活躍をお祈りしています。次回も楽しみにしています。宜しくお願いします。スタッフのみなさまも、コロナには気を付けてください。

（山形県飽海郡　真嶋寿恩）

▽主の平和　宣教者の皆様大変ご苦労様でございます。“コロナ ” の中皆様のご健康をお祈りします。（北海道小樽市　櫻井佳子）

▽皆様の活動と心を合わせてお祈りしています。

（熊本県熊本市

ショファイユの幼きイエズス修道会　内坪井修道院）

▽僅かで心苦しいのですが、皆様のお働きに少しでも役立てて頂けましたら幸いに存じます。

（栃木県那須郡　シトー会那須の聖母修道院）

▽このところミサにあずかれずにおります。毎月郵便局に行くのも大変ですので 12 月分まで会費を送ります。

（神奈川県横浜市　長田弘子）

▽長年細々ながら気持ち協力致しましたが、夫も亡くなり 91 歳になりましたのでお祈りのみにさせて頂きます。（広島県広島市　舟井浩子）

▽お元気ですか皆がたいへんな時です助け合わないといけないと思います。感謝

（福岡県福岡市　長谷川千恵）

▽「きずな」ありがとうございました。子供たちが元気で教育を受けられますように祈ります。

（三重県名張市　福岡いさ子）

▽宣教者の皆様ご苦労を思い、祈っております。

（長野県松本市　山田満喜）

▽コロナ禍を生きる知恵は聖書に記されています。コヘレトの言葉 12-13　詩編 91-1〜12

（茨城県牛久市　松田　宏）

▽いつも「きずな」をありがとうございます。Sr. 弘田様がおっしゃるとおり「普通」って何だろうと考えさせられる日々です。皆様のご活

躍をお祈りいたしております。

（鹿児島県鹿児島市　岩崎正幸）

▽コロナ禍の皆様の奮闘心に沁みました。お身体を大切に。　（東京都中野区　篠岡淑子）

▽いつも ありがとう

（千葉県松戸市　平松裕子）

▽メキシコ国境の移民に送ります

（東京都西東京市　井上景子）

▽パンデミックの恐怖の中で、お働き下さる海外宣教者の兄弟姉妹の心身の健康をお祈りさせていただきます。　（福岡県福岡市　深堀邦枝）

▽いつも「きずな」をありがとうございます。

（マリアの宣教者をフランシスコ修道会　東京第三修道院）

▽ボリビアの野原昭子もコロナの中元気に頑張っているようです。

（福岡県遠賀郡　俵　靖子）

▽いつも「きずな」をありがとう。コロナにもかかわらず、海外宣教者達が頑張っているのに敬意と感謝です。

（愛知県名古屋市　平澤忠雄〈布池教会〉）

連載

「海外宣教」
フラテッリ・トゥッティと私たち

弘　田　しずえ
ペリス・メルセス宣教修道女会

10月3日に、アッシジでパパ様が発表された回勅のタイトルは、Fratelli Tutti（兄弟のみなさん）となっていますが、内容は、全人類が兄弟姉妹として生きるように招いています。第一章、「閉ざされた世界の闇」で、回勅は、現代世界が分裂、対立、孤立、貧困、排除、差別に苦しみ、利潤追求と切り捨て文化に基づく市場論理の横行、一人ひとりの人間の権利と尊厳を無視し、新しい奴隷制が存在している現実の厳しい批判を展開します。新型コロナウィルスは、いのちを優先しない政治、経済がもたらす不正の構造を暴きだし、とくに弱者に打撃を与えていますが、さらに、政治の主導者たちが、大衆迎合の国粋主義をあからさまに政策として打ち出し、「我々」と「彼らーあいつら」の分断を深めている現実に対して、パパ様は「**愛さないという最大の危険**」と警告されます。14回使われている壁と言う言葉が、米国とメキシコの間の壁、イスラエルとパレスチナの壁、さらに一人ひとりの心の壁が、無関心のグローバル化を常識的にもたらしていることを訴えます。

このような現代世界の現実にたいして、回勅は第二バチカン公会議の現代世界憲章の言葉を引用し、私たちが自分のこととして、向き合うよう促します。「現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ、特に、貧しい人々とすべて苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、悲しみと苦しみでもある。真に人間的な事がらで、キリストの弟子たちの心に反響を呼び起こさないものは一つもない。」閉ざされた世界の闇の中に苦しむ多くの人びとを、我が身の痛みとして受け入れるために、見知らぬ人を隣人として受け入れる「良きサマリア人」のたとえ話を、今こそ、具体的に生きる必要性を、回勅は、強調しています。分断の世界が、い

かにして「私たち」を再発見し、取り戻すかが、イエスに従う私たちに突き付けられた課題です。パパ様は、私たちが良きサマリア人として、見知らぬ人、自分とは違う人を、兄弟姉妹として受け入れないならば、選択肢は、強盗か、道の向こう側を見ないで通り過ぎる司祭、律法学士となるしかないと指摘されます。

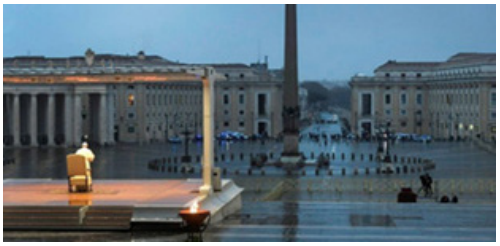
大衆迎合の国粋主義は、多国主義を否定し、違いを受け容れない一国主義を政策として打ち出し、結果として、外国からの移民、難民、また、国内のマイノリティの生きる権利を奪っています。新型コロナ・ウィルスの蔓延は、歴史上始めて、文字通りグローバルなパンデミックとなりましたが、このためには、グローバルな対応が必至です。ところが、実際には、多国間の取り組みが、きわめて困難な現実があります。回勅は、「愛さないという最大の危険」にたいして、人権、連帯、対話、出会いの文化のグローバル化、開いた心、国境を超えたひとつの世界の実現を促進する政治と、社会的友情を「市民」として生きることを提唱しています。これは、宣教者である私たちに、きわめて重要なメッセージです。

人もモノも使い捨ての文化にたいして、出会い、対話、連帯の文化が、社会のありかたとなり、人類全体が、ともに歩む仲間である真実が、政治、経済、外交、教育、福祉を方向づける指標となるビジョンがなければ、世界は、回勅の警告する闇に、ますます閉ざされていくでしょう。福音を告げる使命を生き方として選ばせていただいた私たちは、**フラテッリ・トゥッティ**を、希望のメッセージとして、まわりの人びととのかかわりを通して、これからわかちあうことができますように。

クリスマス特集

顧問司教　山野内 倫 昭〈さいたま教区〉

皆が一つになって漕ぐように招かれています、互いの慰めが必要ですから



これは教皇フランシスコがパンデミックの時の特別な祈りとして、今年の３月 27 日の夕方、聖ペトロ広場で述べられた言葉です。教皇様は既に 83 歳。あの夜は気温 11 度で、冷たい雨が降っていました。広場はパンデミックのために誰もいません。しかし教皇様は、信仰を持つ人間として全ての人類と一つになり、一緒に漕ぐよう招き、そして互いに慰め合うよう強調されました。私たちは皆、同じ船に乗っているからです。

あの夕方、教皇様がコメントしたマルコ福音書（マルコ４．35 ～ 41）は、弟子たちと一緒に舟に乗っていたイエスが荒れている海を鎮めた場面です。教皇様は、あの夕方（「その日の夕方になって」）という福音の言葉をもって、今の時を描き始められました。

「わたしたちが耳を傾けた福音はこのように始まります。この数週間は夕闇が降りてきたかのよ

うです。深い闇がわたしたちの広場や道や町に満ちていきました。闇はわたしたちの生活を奪い、すべてを沈黙と虚無で覆いました。闇はそれが触れるすべてのものを麻痺させました。空気がそして人々の態度や眼差しが、それを語っています。わたしたちは怖れおびえています。福音書のエピソードにある、突然の激しい突風に襲われた時のイエスの弟子たちのように。わたしたちは皆、同じ船に乗り合わせているということに気づきました。皆弱く混乱し、しかし同時に一人ひとりが大切でかけがえのない存在であり、皆が一つになるよう招かれ、互いの慰めを必要としています。」

強調されているのは、この船には私たちみんなが一緒にいるということ。あの弟子たちのように苦悩と嵐の海の中、声を合わせて主に叫び求めます。「沈みますので助けてください」と。私たちも、それぞれが別々ではいけないということに気付きました。

確かに、日本の教会や世界の様々な場所に派遣されている宣教師たちが、地元の人たちと共にこのパンデミックに苦しんでいると思います。しかし、教皇様がおっしゃっているように、みんなが同じ船に乗っています。この時、この状況から逃げないで、地元の教会と協力し、苦しんでいる人たち、特にサマリア的な姿を必要としている人たち、ひとりひとりに寄り添っていきましょう。

私たちにとって今は、内的清めの時であり、イエスの弟子として、再び宣教の奉献への動機を新たにする時です。この世界において、主の救いの現存の証し人になること。そのために再び教皇様の言葉に耳を傾けましょう。

「主は、この嵐のさなか、わたしたちに話しかけます。目覚め、連帯の精神と希望を持ち、連帯と支援を与え、すべてが挫折に見えるこの時に意味を見出すようにと呼びかけます。主はわたしたちの信仰を目覚めさせ、生かすために、復活されます。わたしたちには、錨（いかり）があります。十字架においてわたしたちは救われました。わたしたちには舵（かじ）があります。十字架においてわたしたちは贖われました。わたしたちには希望があります。十字架においてわたしたちは贖われました。わたしたちには希望があります。十字架においてわたしたちは再び癒され、抱擁されました。何ものも誰もわたしたちを贖い主の愛から引き離すことはできません。

愛情や出会いの欠如に苦しみ、多くの物の不足を経験しつつある、この隔離された生活の中で、わたしたちは再び救いのメッセージを聞きます。主は復活され、わたしたちの近くにおられます。主は十字架上からわたしたちに呼びかけます。未来に待つ生活を見出し、わたしたちを必要とする人々に向き直り、わたしたちが持つ恵みを知り、強め、活かすようにと招きます。「暗くなっていく灯心を消すことなく」（参照：イザヤ 42，3)、希望の灯を再びともしましょう。」

会長　司祭　村　上　芳　隆〈フランシスコ会〉

クリスマスを祝う

12 月に入ると町中がクリスマスの飾り付けを始め、音楽も流れてきます。コロナ禍の今年、クリスマスの祝いはどうなるでしょうか。主の降誕ミサは例年だと人で聖堂があふれるのが常ですが、３密を避けるミサは寂しい様子になりそうです。また、ミサに与れない信徒も多く出ることが予想されますが、降誕祭のミサがネットで配信されることで補うことになるでしょう。

インターネットでクリスマスに関連する言葉を検索すると、興味深い記事やサイトを見つけるこ

とが出来ます。試しに「クリスマス」と「語源」でインターネット検索すると様々な解説を見つけました。たとえば、「クリスマスの語源：英語では『キリストのミサ』という意味の Christ´s Mass がつながって Christmas になった」というのがありました。そのほか、12 月 25 日に祝うこと、クリスマスツリー、サンタクロースなどの由来が懇切丁寧に説明されています。多くは妥当な説明です。

また、「クリスマス」、「聖フランシスコ」、「飼い葉桶」で検索すると聖書の引用やクリスマスの説教が出てきました。次のような説明がありました：「フランシスコはクリスマスの夜に馬小屋を飾って祝った最初の人であり、その習慣を広めた」、とか「アッシジの聖フランチェスコはグレチオの森で、イエスの誕生の物語の場面を人形で表わし、その前で仲間と一緒にクリスマスの神秘を黙想し、その喜びを味わったと伝えられる。これは『クリッペ（うまごや)』の由来となった」。他にもほぼ同じような解説が無数に出てきました。これは一般に流布している説明です。しかし、意外なものも見つけました。「12 月 25 日、教皇リベリオは（352 ～ 356)、ローマで最初のクリスマスの祝いをするに当たって、聖マリア・マジョーレ大聖堂で初めて小さいクリブ（飼い葉桶に寝かされた幼子）を飾った」。

そこで、Catholic Encyclopedia という英語サイトで「crib(飼い葉桶)」を調べてみました。すると日本語で検索した情報とはかなり違った説明が詳しく出ていました 。結論から言うと、最初に「飼い葉桶」をクリスマスに飾るようにしたのは、聖フランシスコではなかったのです。11 世紀にはすでに受難劇と同じように降誕劇が行われていました。さらに 12 世紀には典礼劇として発展していったようです 。聖フランシスコがグレッチオでクリスマスを祝った事で、飼い葉桶や馬小屋を飾って祝う習慣が全世界に広まっていったのでしょう。

では 1224 年のクリスマス、グレッチオでは何があったのでしょうか。1228 年に書かれた最初の伝記（1チェラノ 84－87）を改めて読み直してみました。それによると、飼い葉桶、敷き藁、生きた牛とロバ、そして幼子像が準備された所で（マリア様とヨゼフ様は登場しません)、兄弟たちと村の人々とで降誕祭の夜半ミサが祝われました。そこで、聖フランシスコは助祭として福音を歌い、説教しました。当時の典礼劇に比べると素朴で単純な形、しかも教会の聖堂ではない洞窟で行われたものでした 。もしかすると、これは世界で初めての野外降誕ミサだったのでしょう。実際、ボナベントゥラの伝記によると、この企画のためにフランシスコは教皇庁から許可をもらっています（大伝記 10：7)。

後年、グレッチオには聖堂が建てられました。それは、「動物たちがかつて干し草を食べた所で、将来人々が魂と肉体の健康のために、言葉では言い表せない大きな愛から、わたしどもにご自身をお与えになり、栄光の中に永遠におられる神、父と子と聖霊と共に生き、治められる、我らの主イエス・キリストであられる清く汚れのない子羊の肉を頂くことが出来るためでした。」（1チェラノ 87）

伝記が伝えているのは、グレッチオでのロマンチックな出来事の紹介ではなく、貧しい状況の中での主イエスのご誕生と十字架の秘儀との間に深い関係があることです。わたしたちがご聖体を「霊的な目で観想する」者となること、またそれを拝領することによって「永遠の命を持つ」ようになることは何よりも大事なことです（訓戒 1)。聖体は、聖母マリアの胎に宿り、お生まれになった神の御子イエス・キリストご自身です。ですから、クリスマスとは、御子のご誕生、そして、受難と死と復活の秘儀を一つのもとして祝う「キリストのミサ」以外の何物でもありません。

クリスマスメッセージ

この困難な日々にあっても　神の愛と慈しみを伝えるため
世界各地に赴き働いておられる　宣教者の方々に心を寄せて祈ります

あなたが御子イエズスを遣わして下さったように
私達もあなたの平和の道具として
人を思いやる心を持って過ごしていけますように

新入会員（敬称略）

個人会員　　６名

成井 大介（新潟県新潟市）　平塚 陽子（東京都大島町）　普川 礼子（東京都品川区）
犬丸 里利（東京都目黒区）　ヨゼフ・アベイヤ（福岡県福岡市）　グアダルペ宣教会（東京都港区）
訂正　真嶋 樹恩 → 真嶋 寿恩

事務局より

◎今年は自粛期間もありあっという間の一年になってしまいました。海外宣教者の方々も、このコロナ禍の状況に振り回されているようですが、宣教者をはじめ皆様におかれましてもご無事でお過ごしくださるようにお祈りいたします。
◎例年と違うクリスマスですが、良い降誕祭から新年をお迎えください。。
◎このような状況にもかかわらず皆様から会費や寄付をお送りいただき感謝いたします。領収書の必要な方はご遠慮なく事務局までお申しつけください。
◎書き損じのハガキや未使用の切手などもお待ちしております。通信費として大切に使わせていただきます。
◎「炎の人」ペルー日系人　加藤マヌエル神父　大塚 文平著（日相出版）10 月 31 日発刊
◎事務局は 12 月 25 日（金）～１月４日（月）お休みさせていただきます。

発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106－0032　東京都港区六本木４－２－39
Tel. 03-5770-8753　Fax. 03-5770-8754
e-mail　kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp　URL　http://www.kaigai-senkyo.jp
・銀行振替口座　みずほ銀行高田馬場支店　普通　２０８４１１２
日本カトリック海外宣教者を支援する会
・郵便振替口座　００１４０－５－６７８８１　海外宣教者を支援する会